

式 辞

本日、ご卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。ご卒業される皆さんを励まし、しっかりと支えてこられたご家族や保証人の方々にもお慶びを申し上げますとともに、あらためて深く感謝致します。

中京大学は、1954年の開学以来、70年を超える歴史を刻んでまいりました。卒業生は今年3月末の時点で累計15万名を超えています。国内外のさまざまな分野でたくさん卒業生が活躍していますので、皆さんもこの先、どこかで先輩と出会い、言葉を交わす機会がきつとあることと思います。その際はぜひ、同窓の絆を深めていってください。

卒業生といえば、今年2月に開かれたミラノ・コルティナ冬季オリンピックでの躍動が記憶に新しいところです。本学関係で出場した選手は合計10名でしたが、このうち卒業生では、フィギュアスケートペアで日本初の金メダルに輝いた三浦璃来（みうら・りく）選手と木原龍一（きはら・りゅういち）選手、スキーマーのモーグルで銀メダルと銅メダルを1個ずつ獲得した堀島行真（ほりしま・いくま）選手の3名がメダリストとなりました。一方、在学生でもスポーツ科学部の木村葵来（きむら・きら）選手が学部生として史上初となる金メダル、同じくスポーツ科学部の鍵山優真（かぎやま・ゆうま）選手がフィギュアの男子シングルで前回の北京オリンピックに続く2大会連続の銀メダルを手にしました。りくりゆうペアと鍵山選手はフィギュア団体の銀メダルにもおおいに貢献しており、本学関係選手が一丸となって、世界の大舞台で素晴らしいパフォーマンスを見せてくれたのは本当に誇らしいことでした。

ご存知のとおり、本学の校訓は「真剣味」、建学の精神は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」です。その源流にあるのは、学術とスポーツを別個に考えるのではなく、車の両輪のように一体でとらえてこそ、バランスの取れた人間形成がかなうとする、水戸学の「文武不岐」の精神です。

自らの限界に挑戦し、多くの人に感動をもたらしてくれたオリンピックの活躍は、まさに「文武不岐、かくあるべし」というものでした。一方で、コロナ禍のもとで入学するなど、社会が大きく揺らぐ中で大学生活を送り、さまざまな困難を乗り越えて卒業の日を迎えたみなさんもまた、それぞれの場において「文武不岐」を実践してきたのだといえるでしょう。ぜひ、ここまでの自分の歩みに自信と誇りを持って、この先に広がる人生に、全力で向かってほしいと願います。

世界は今、構造転換の真ただ中にあり、パワーバランスが大きく揺らいでいます。アメリカとイランの間ではホルムズ海峡の航行管理をめぐる対立が解消されず、戦闘終結に向けた交渉の先行きは見通せません。ロシアの軍事侵攻が始まって既に4年半が経過したウクライナでも戦線は膠着し、停戦に向けた道筋

は描けないままとなっています。一刻も早く情勢が落ち着くことを祈るばかりです。

こうした中で気になるのは、近年、大国のリーダーたちが、意見を異にする相手と対峙する際に、話し合いで妥協点を見出したり、情理を尽くして説得したりするのではなく、「力こそ正義」とばかりに強引に押し切ろうとする傾向が強まっている点です。先月には、ICC（国際刑事裁判所）の赤根智子（あかね・ともこ）所長を制裁対象とする強硬な措置がとられ、「国際法の番人」とされる機関すら脅かされる異例の事態が発生しました。ちなみに赤根氏は名古屋の出身で、かつて本学の大学院法務研究科で教授を務められた経歴もお持ちです。本学と縁がある方だからというだけでなく、国際社会が連綿と築いてきた法秩序をいかに堅持していくかという重い問いを含む問題として、真剣に考えていかなければなりません。

もう一つ、皆さんにぜひ留意してほしいのは、急速な技術革新が進むAIとの関わり方です。いまや学術やビジネスの世界はもちろん、私たちのプライベートの生活も、AIなしには考えにくくなっています。時間の短縮や効率化という面で非常に有益なのは言うまでもありませんが、その半面で、本来は自分の頭で考え、判断せねばならないことまで、AIに委ねてしまっていないでしょうか。専門家の間では、AIの知能が人間を凌駕し、制御可能な限界を超えていくリスクが論議されていますが、そうした局面に至る前に、人間の方が自ら「考える力」を放棄するようなことがあってはなりません。

あまりに多くの情報が氾濫する世の中だけに、スピードと、わかりやすい回答を求め、AIの要約に頼ってしまうこともあるでしょう。しかし、重大な物事であればあるほど、わかりにくさや複雑さの中にこそ、見逃してはならない本質が隠れているのです。人類の科学や文化がここまで発達してきたのは、時間や手間暇を惜しまず、目標に向かって粘り強く、愚直に取り組んだ先人の苦労があったこと、ということをお忘れずにおいてほしいと考えます。

最後になりますが、中京大学での学びを通して、皆さんには既に、社会課題を主体的に捉え、真正面から向き合っていくだけの力が十分に備わっているはずです。ぜひそれを自らの武器として、新しい舞台で存分に腕を振るってってください。既存の価値観や前例にとらわれず。自分たちで新たな時代を切り拓く。そんな気概をもって、新たな一步を踏み出してほしいと願います。

無論、誰しも常に順風満帆ではありません。時に失敗し、挫折を味わうこともあるかと思いますが。そんな時こそ、中京大学で過ごした日々とともに、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意を持つ」という四大綱を思い出してください。必ずや、道は拓けてくるはずですよ。

皆さんの前途が、明るく輝くものであることを確信しています。本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2026年9月18日

中京大学長
梅村清英